



気候変動に関する政府間パネル (IPCC) 等に関する国際動向

令和6年2月9日

文部科学省研究開発局

気候変動に関する国際的枠組みについて

IPCCが1990年に発表した第1次評価報告書が、UNFCCC採択(1992年)の重要な科学的根拠。**IPCC評価報告書はUNFCCCの重要な決定への科学的根拠**を与える。また、UNFCCC締約国が国別報告書(NDC)を作成する際に必要となるガイドライン・手法を示すなど、様々な面で科学的側面からの協力を行っている。

第6次評価報告書(AR6)：2014年から作成された一連の評価報告書をまとめた統合報告書が2023年3月に公表され、AR6サイクルが終了した。

第7次評価報告書(AR7)：2023年7月にAR7議長団が選出された。



『**1.5°C特別報告書**』(2018.10) 『**土地関係特別報告書**』(2019.8) 『**海洋・雪氷圏特別報告書**』(2019.9)

気候変動に関する政府間パネル(IPCC)

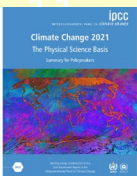


1988年、国連環境計画 (UNEP) と世界気象機関 (WMO) により共同設立

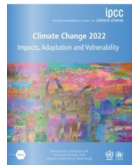
目的：気候変動に関し、科学的・技術的・社会経済学的見地から包括的な評価を実施

総会 (195カ国・地域)

第1作業部会
自然科学的根拠



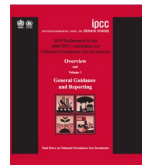
第2作業部会
影響・適応・脆弱性



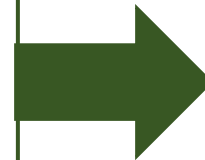
第3作業部会
緩和



イベントリスクワース



5~7年ごとに報告書を作成
招請に対応



科学的根拠の
情報提供を招請



国連気候変動枠組条約(UNFCCC)



1992年採択・1994年発効

目的：温室効果ガス濃度の安定化

締約国の義務：温室効果ガス削減計画の策定・実施、排出量の実績公表

先進国の追加義務：途上国への資金供与や技術移転の推進

<条約の目的を達成するための具体的枠組>

パリ協定 (COP21・2015年採択)
・2°C目標と1.5°C努力目標

締約国会議 (COP)

科学及び技術の助言に関する補助機関会合 (SBSTA)

実施に関する補助機関会合(SBI)

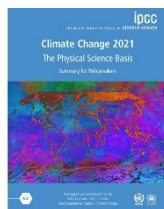
第6次評価報告書（AR6）サイクルの完了

第6次評価報告書について

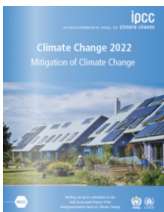
2015年2月のIPCC第41回総会において、AR6は第5次評価報告書（AR5）と同様、5～7年の間に作成すること、18ヶ月以内にすべての評価報告書（第1～第3作業部会報告書）を公表することなどが決定された。

2023年3月のIPCC第58回総会において、AR6統合報告書の政策決定者向け要約（SPM）が承認されるとともに、同報告書の本体が採択。**2023年3月20日の統合報告書の公表をもって第6次評価サイクルは終了**となった。

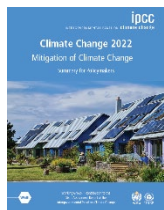
評価報告書



- 第1作業部会（WG1）の報告書
『**気候変動 - 自然科学的根拠**』
公表日：2021年8月9日



- 第2作業部会（WG2）の報告書
『**気候変動 - 影響・適応・脆弱性**』
公表日：2022年2月28日



- 第3作業部会の報告書
『**気候変動 - 気候変動の緩和**』
公表日：2022年4月4日

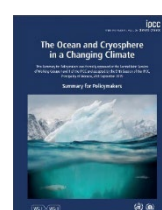
特別報告書



- 『**1.5°C特別報告書**』（SR1.5）
公表日：2018年10月



- 『**土地関係特別報告書**』（SRCCL）
公表日：2019年8月



- 『**海洋・雪氷圏特別報告書**』（SROCC）
公表日：2019年9月

統合報告書



- 統合報告書
『**統合報告書 - 気候変動2023**』
公表日：2023年3月20日

方法論報告書



- 温室効果ガスインベントリに関する
『**2019年方法論報告書**』
公表日：2019年5月

第7次評価報告書 (AR7) ビューローの決定 (2023年7月)



議長



ジム・スキー（英国）

IPCC/AR6/WG3共同議長

インペリアル・カレッジ・ロンドン持続可能エネルギー教授

IPCCでの経験：AR6での「1.5°C特別報告書」及び「土地関係特別報告書」「WG3（緩和）」主導。AR5/WG3副議長、AR5/WG3/RE、TAR/WG2/LA/RE、SAR/WG2/CLA

40年以上の気候科学の経験と専門知識を生かし、気候変動の解決策に焦点を当てた複数の分野に渡る研究、科学と政策立案両面の実績をもつ

英国の気候変動委員会の創設メンバー。スコットランドのジャスト・トランジション委員会の委員長、英国研究評議会のエネルギー戦略フェロー、エネルギー研究所の会長、UKエネルギー研究センターのリサーチディレクター

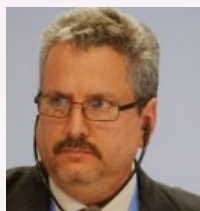
副議長



レディスラウス・チャンガ
（タンザニア）

タンザニア気象庁、ダル
エスサラーム大学非常
勤講師

IPCC報告書（AR4、AR5、AR6）政府
査読、IPCC承認総会時のファシリテーター、
気候変動交渉、UNFCCC交渉時のファシリ
テーター



ラモン・ピチス＝マドルガ
（キューバ）

AR6/WG3副議長
キューバ世界経済研究セ
ンター（CIEM）所長兼
主任研究員

ハバナ大学経済学部准教授、米州
地球変動研究所（IAI）科学諮問
委員会メンバー



ダイアナ・ヴォーサツツ
（ハンガリー）

AR6/WG3副議長
中央ヨーロッパ大学
（CEU）環境科学
・政策学部教授

IPCCAR5/WG3「建築部門のGHG削減」の
CLA、AR4/WG3「住宅および商業施設の
GHG削減」のCLA。国連の気候変動に関する
科学専門家グループのメンバーを務め、世界エ
ネルギー評価では建物関連の作業を指揮

【参考】WG1共同議長、副議長詳細

※ 青背景：先進国 赤背景：途上国



WG1共同議長



ロベール・ヴォータル（フランス）

フランス国立科学研究センター（CNRS）上席研究員
ピエール・サイモン・ラプラス研究所
AR6/WG1/第12章CLA(地域規模の影響とリスク評価)

研究テーマ：観測と気候予測を混合したモデル予測の開発、気候変動が再生可能エネルギー源に与える影響、地域気象や健康に影響を及ぼす要因に対する気候変動の影響を理解するモデルの開発、熱波や大雨等の極端現象の理解促進



ジャン・シャオイエ（中国）

張 小曳 (Zhang Xiaoye)
中国工程院(國務院所管の工学科学最高
諮問学術機構)会員
AR5/統合報告書RE、AR5/WG1/LA、
AR4/WG1/LA

研究テーマ：人間活動が気候変動に与える影響、気象予測研究
WMO（世界気象機関）にて砂嵐警報システム議長を経験

WG1副議長

アイーダ・ディオング （セネガル）



フランス国立民間航
空気象庁、災害リス
ク軽減や気候適応
AR6/WG1/LA

ナナ・アマ・ブラウン・ クルセ（ガーナ）



ガーナ大学准教授
大気物理学、生態系

マヘスワール・ルパケティ （ネパール）



持続可能性研究所-
ヘルムホルツ・センター
・ポツダム、エアロゾル
気候相互作用、山
岳生態系、SLCF

イネス・カミローニ （アルゼンチン）



ブエノスアイレス大学
理学部大気海洋科
学科准教授、国立
科学技術研究評議
会研究員

シェリル・ハーパー （カナダ）



アルバータ大学教授、
カナダ気候変動助言
委員会
AR6/海洋・雪氷圏
特別報告書/LA、
WG2/CLA

エドヴィン・アルドリアン （インドネシア）



国立研究技術革新機
構 気象・気候学教授
AR6/WG1副議長
AR5/WG1/LA地域気
候変動研究

ソニア・セネヴィラトネ （スイス）



チューリッヒ工科大学
土地気候力学教授、
AR6/WG1/CLA、
WG2&3/LA、GSTと
IPCCの関係強化

第7次評価報告書（AR7）サイクルで作成予定の報告書等のスケジュール



文部科学省

第60回 IPCC総会

2024年1月16日～20日に開催されたIPCC第60回総会において、AR7サイクルで作成する成果物及びスケジュール等が議論され、作業部会報告書を含む成果物の作成が決定された。AR7の統合報告書は2029年に取りまとめられることが想定される。（詳細の報告書作成スケジュールはビューロー及び事務局が作成し次回総会にて決定される見込み。以下は想定スケジュール）

※次回総会（IPCC-61）は2024年7月下旬～8月上旬頃、トビリシ（ジョージア）にて開催予定

	2024	2025	2026	2027	2028	GST2	2029
IPCC/UNFCCCの動き	⑥0 AR7スケジュール等 SR都市・SLCF章立て承認 ⑥1 SR都市章立て承認(予備) ⑥2	⑥3 WG1・2章立て承認 ⑥4 WG2・3章立て承認 ⑥5 WG・統合報告書章立て承認(予備)	⑥6 ⑥7	⑥8 SLCF承認 ⑥9 SR都市承認 ⑦0 CDR/CCS/CCUS承認	⑦1 WG1承認 ⑦2 WG2承認 ⑦3 WG3承認		⑦4 統合報告書承認
作業部会報告書等							
CMIP7	(Cut off date:2026後半を想定)						
WG1(自然科学的根拠)	スコーピング	章立承認	(Cut off date:2027前半を想定)				承認・公開
	○	○ 執筆者選定	LAM1 査読	LAM2 査読	LAM3 査読	▽ LAM4 政府査読	○
WG2(影響・適応・脆弱性)	スコーピング	章立承認	(Cut off date:2027後半を想定)				承認・公開
	○	○ 執筆者選定	LAM1 査読	LAM2 査読	LAM3 査読	▽ LAM4 政府査読	○
WG3(緩和)	スコーピング	章立承認	(Cut off date:2027後半を想定)				承認・公開
	○	○ 執筆者選定	LAM1 査読	LAM2 査読	LAM3 査読	▽ LAM4 政府査読	○
統合報告書	スコーピング 章立承認						承認・公開
	○ ○						政府査読 ○
特別報告書							
都市	スコーピング	章立承認	(Cut off date:2026後半を想定)				承認・公開
	○	○ 執筆者選定	LAM1 査読	LAM2 査読	LAM3 査読	▽ LAM4 政府査読	○
方法論報告書							
SLCF ※1	スコーピング	章立承認	(Cut off date:2026後半を想定)				承認・公開
	○	○ 執筆者選定	LAM1 査読	LAM2 査読	LAM3 査読	▽ LAM4 政府査読	○
CDR/CCUS ※2	○ 専門家会合						承認・公開
							政府査読 ○

※1 : SLCF (Short-lived Climate Forcer) 短寿命気候強制力因子

※2 : CDR(Carbon Dioxide Removal)二酸化炭素除去、CCUS(Carbon dioxide Capture, Utilization and Storage) 炭素回収利用及び貯留

IPCCシンポジウム及びAR7執筆者候補との意見交換会の開催

IPCCシンポジウム『IPCC第7次評価報告書へ向けて～未来のために今私たちが行動しよう～』

開催：2023年10月23日（月）@東京国際フォーラム

概要：講演＋パネルディスカッション

(IPCC副議長、WG2共同議長招聘)

<https://www.gef.or.jp/news/event/231023ipccsympo>

若手研究者・IPCC副議長・WG2共同議長、TFI共同議長の意見交換会

日時：2022年10月23日（火）

参加者：AR7執筆者候補、シンポジウムの招聘者、パネリスト

IPCCシンポジウム『第7次評価サイクル(AR7)始動!(仮題)』

開催：2024年3月4日（月）@虎ノ門ヒルズフォーラム

概要：講演＋パネルディスカッション

- Robert Vautard WGI共同議長（WG1について）（調整中）
- Joy Jacqueline Pereira WGIII共同議長（AR7について）
- 榎剛史TFI共同議長（SLCF方法論報告書について）
- Şiir KILKIŞWGIII副議長（都市関連特別報告書について）

WG1・3、SLCF、都市関係特別報告書に関係のあるビューローと日本人研究者（AR7執筆者候補）の意見交換会

AR6/WG1広報資料の公表について（2023年6月に文部科学省のウェブサイトにて公開）



Climate Change 2021
The Physical Science Basis

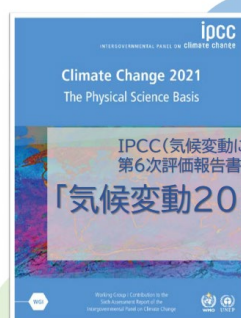
IPCC 第6次評価報告書 (AR6)
第1作業部会 (WG1) 報告書

気候変動 2021
～自然科学的根拠～

解説資料

小学校高学年～中学生向け

文部科学省 | 気象庁



Climate Change 2021
The Physical Science Basis

IPCC (気候変動に関する政府間パネル)
第6次評価報告書 (AR6) 第1作業部会 (WG1) 報告書

「気候変動2021 自然科学的根拠」

解説資料

一般(高校生以上)向け

文部科学省 | 気象庁



気候変動は世界中で
極端な気象や気候に影響を与えています

- 大雨**
 - 1950年代以降、世界中のほとんどの地域で、大雨の回数や、1回に降る雨の量が増加。
- 干ばつ**
 - 1950年代以降、いくつかの地域で干ばつが増加。
 - 熱波と干ばつの同時発生の回数も世界規模で増加。
- 極端な高温**
 - 1950年代以降、陸域で極端な高温の回数と強度が増加。
 - 1980年代以降、海水温が極端に高くなる回数が倍増。
- 熱帯低気圧**
 - 強い熱帯低気圧の発生割合が過去40年間で増加。
 - 北太平洋西部では強度がピークに達する位置が北に移動。

近年発生した気象や気候の極端な現象の多くは、人間の影響が要因となって発生したことが、さまざまな科学的な証拠によってわかってきています。

資料掲載ページへのリンク



[https://www.mext.go.jp/a_menu/kaihatu/kankyouene/mext_02470.html#:~:text=\[第I作業部会 \(WG1\) 報告書 \(自然科学的根拠\) 解説資料](https://www.mext.go.jp/a_menu/kaihatu/kankyouene/mext_02470.html#:~:text=[第I作業部会 (WG1) 報告書 (自然科学的根拠) 解説資料)